



農業王国
めむろ



スイートコーン
生産量
日本一



子育て応援賞とは?

子育てしやすい環境づくりに功績のあった個人・団体・企業を表彰するものです。平成29年12月に創設され、昨年度は「ひばりワクワク広場実行委員会」の皆さんが受賞されました。



表彰状
片桐和江様
第5回子育て応援賞受賞者
片桐和江さん

活動の継承へ…

今までの活動について「子育ては援助する側がないと難しい。諸先輩を見習い、人と人を繋げる活動ができた。連携できる人がいて良かった」と振り返り、今後については「最近では自分自身がいつまでやれるのかな、という思いもある。子どもを取り巻く社会的な環境や保護者の考えも変わってきている。世代交代を促しながら、できることを継続していきたい」とコメント。団体での活動について「誘われて入って長く活動される方もいる。子育てが終わった方も子どもの成長に関わるチャンスがある」と魅力を語っていただきました。

子ども達が喜ぶことを

今回の受賞に際し、片桐さんは「昨年度は、ひばりワクワク広場実行委員会の授賞式に参加したが、このように自分が賞をいただくのは照れ臭い一言」。

活動を始めたきっかけは、平成元年の芽室町図書館開館に合わせて人形劇サークルを立ち上げたことだそう。「自分の子どもが喜んでくれるので、もっと見せてあげたいと思った」と当時を振り返ります。

活動を続けていて良かったことについて「小さい頃に関わった子ども達や保護者が覚えていてくれて、声をかけてもらえるのが嬉しい。自分も元気でいられる」と笑顔で話されていました。

2月8日火曜日、役場会議室で第5回子育て応援賞の表彰状授与式が行われました。今年度受賞者の片桐さんは「人形劇サークルむぎの穂」「ひばりワクワク広場実行委員会」「食の研究室えびの会」などの団体に所属し「育児ネットめむろ」では2代目代表を務めるなど、今まで精力的に活動され、これまで多くの子ども達や子育て中の保護者の皆さんと関わってきました。

撮影時のみマスクを外していただきました。

まちのうごき

2月7~9、14日

芽室高校2年生

高齢社会を生きる ~地域の現状と支援を学ぶ~



高齢者支援課職員が講師となり、芽室高校2年生に対し、「高齢社会を生きる」と題して授業が行われました。町の高齢化の現状を知り、住み慣れたまちで高齢になっても安心して生活していくためにはどうしたらよいか、座学だけではなく、ワークシートで課題と解決策を考え発表したり、高齢になった時の疑似体験を行うなど実践的な学びになったようです。

講師の職員からは「今日の授業のことをご家族やお友だちとぜひ話題にしてみてくださいね」と将来への願いを込めて語りかけられました。

2月25日

芽室町一広尾町

うみとやまの学校給食交流



広尾町との友好都市提携35周年記念事業として、広尾町のたらを使用した「たらのチゲ汁」、芽室町のごぼう、じゃがいも、さやいんげんを使用した「ごぼう入り肉じゃが」が両町の小中学校の給食で提供されました。子どもたちからは「おいしかった! 毎年食べたい!」との声があがっていました。

当日は、広尾町の漁業と芽室町の農業の生産現場や携わる人からのメッセージ等の動画も給食時に放映しました。両町の交流を改めて知ってもらう機会となりました。

1月29日

北明やまざと幼稚園

第16回食育コンテスト 文部科学大臣賞



北明やまざと幼稚園が行っている『やまざと食農プロジェクト』の取り組みが、第16回食育コンテストで

『文部科学大臣賞』を受賞しました。

このプロジェクトでは畑の除草・土起こし、園内の牧場でお世話している動物のたい肥を利用した土づくり、収穫後の作物を使ったピザや味噌作りといった取り組み全てに子ども達が関わっているそうです。

園長の村椿先生、担当の山田先生からは「これまでの取り組みが認められ、うれしく思う。畑はまだ開拓したばかりなので、土の栄養管理などをしっかりし、より良いものを作る環境を整えたい」とコメントをいただきました。

2月23日

MEMロスキー場

スノーデュアスロン北海道2021第2回十勝めむろ大会



MEMロスキー場で「スノーデュアスロン北海道2021第2回十勝めむろ大会」(主催: NPO法人花サイクルクラブ 後援: 芽室町)が開催されました。昨年、MEMロスキー場では初めて開催されたこの大会は、トライアスロンならぬ「デュアスロン」ということでクロスカントリースキーとファットバイクの二つの競技を組み合わせ競います。

年代、性別さまざまな17人の選手が参加し、とってもハードなレースをみごとに完走していました。雪国のハンデを逆手にとったこの競技から、今後目目が離せません。

芽室大火を忘れない

1964(昭和39)年3月22日未明、芽室町の中心市街地で大規模な火災が発生しました。87戸が全焼、403人が被災し、一晩にして中心市街地は焼け野原となりました。後に「芽室大火」と呼ばれるこの災害を、当時を知る方にお聞きしました。

発災時、就寝中だった青山忠義さんはサイレンの音で目を覚ました。当時



▲取材にご協力いただいた青山忠義さん(右)、妻の美智子さん

の消防団長であった父・政雄さんが家を出ていきましたが、その時点では火事の規模も分からず、ボヤだと思っただけです。

やがて周囲の様子がおかしい事に気がつき外を確認すると、出火場所から南に広がった火が東側に向かおうとしているところでした。青山さんの家には翌月に出産を控えた妻の美智子さんや同居の親族がおり「先祖の位牌を持ち出すのがやっとならなかつた」と、着の身着のまま避難しました。



▲火の手があがる中心市街地

最大風速20mともいわれる当日の強風もあり、飛び火で3



▲復興時の記録資料より、焼失地域図

00mも先の亜麻工場が出火するなど、町は甚大な被害を受けました。夜が明けると、中心市街地は一面の焼け野原となっていました。青山さんの家と商店も全焼し、焼け跡からは溶けて固まった鍋だけが出てきたそうです。

「陸上自衛隊の方々が来て、焼け跡の残骸を片付けてくれた。何もかも焼けてしまったため遮るものがなく、呆気なく片付いてしまった」



▲溶けて固まった鍋



▲大火から2日後、瓦礫撤去後の中心市街地

あれから58年。忠義さんは「他に印象に残る出来事が思い出せないくらい。大火によって人生が変ち、皆から忘れられていくのが気がかり」と語ります。

芽室大火を忘れない。当時を風化させないために、今できることを考えるときが来ているのかもしれない。



▲3か月後にはここまでの復興をみせた

芽室の歴史探訪

このまち大好き！

昭和二十二(一九四七)年の新学制発足時、町内の中学校は分校や小学校併置も含めて、芽室、美生、北伏古、西士狩、上美生、祥栄、北明、平和、明正の九校だったが、翌二十三年に渋山を加えて十校となった。

さて、芽室中学校だが、同二十二年四月三十日、元青年学校の三教室と芽室小学校の四教室を使い七学級編成で開校した。そして、直ちに、現・総合体育館や温水プールの一帯を敷地として、新校舎の建設に着手した。工事は三期に分けて進められ、体育館の建設を含め全工事が完了したのは同二十四(一九四九)年十二月であった。

しかし、時代の推移と共に、中学校の生徒数の減少が続く一方、教育環境条件等の整備が求められる中で、町は小規模中学校の統合により課題の解決を図るべく、各地区、学校別に地域懇談会や協議会を重ねていった。



そして、同四十五年(一九七〇)年一月の町議会において統合方針を可決した。

その81 「芽室中学校」

(芽室町東八条南二丁目一番地) 芽室歴史探訪会 土岐 一雄

七一年の時点で、町内の中学校は川北方面や伏古方面において統合が進んでいたこともあって六校であったが、新しく開校する新芽室中学校は対等合併であることが統合の基本条件であった。

なお、この過程で、上美生中学校は芽室市街地から遠いことや二学級を維持できること、また上美生は一市街地が形成されていることなどから、残されることになった。

新芽室中学校の校舎は、元帝國纖維芽室亜麻工場跡の町有地に三か年計画で建設されることになり、同四十六(一九七二)年に着工された。

こうして、芽室中学校は同四十八(一九七三)年三月に開校した。次いで四月一日、新しい芽室中学校は芽室、新栄、明友、祥栄、渋山の五中学校の対等合併の統合校として開校し、校旗や校歌も一新された。

引用・参考文献

- 「芽室中学校三十五年のあゆみ 和」
- 「芽室中学校開校十周年記念実行委員会 昭和五十七年九月発行」
- 「芽室町百年史」
- 芽室町役場 平成十二年発行